

<参考資料>

- 1 宜野湾市食育推進会議規則
- 2 委員名簿
 - ①宜野湾市食育推進会議委員名簿
 - ②宜野湾市食育推進計画策定検討委員会委員名簿、
 - ③宜野湾市食育推進計画策定作業部会委員名簿
 - ④ぎのわん食育ワークショップメンバー
- 3 計画策定の体制
- 4 宜野湾市食育推進 計画策定の経緯
- 5 ぎのわん食育ワークショップの結果
- 6 食育を取り巻く状況等

1 宜野湾市食育推進会議規則

宜野湾市食育推進会議規則をここに交付する。

平成 24 年 3 月 30 日

宜野湾市長

宜野湾市規則第 13 号

宜野湾市食育推進会議規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、宜野湾市食育推進会議条例（平成 24 年宜野湾市条例第 8 号）第 4 条の規定に基づき、宜野湾市食育推進会議（以下「推進会議」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第 2 条 推進会議の委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 食育の推進に関係する者
- (3) 公募による市民
- (4) 市の職員
- (5) 前各号のほか市長が必要と認める者

(会長及び副会長)

第 3 条 推進会議に会長及び副会長を置き、委員の互選でこれを定める。

2 会長は会務を総理し、推進会議を代表する。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 4 条 推進会議は、必要に応じ会長が招集し、会長が議長となる。

2 推進会議は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 推進会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 推進会議は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、その意見を聴き、又は説明を求めることができる。

(部会)

第 5 条 会長は、推進会議に調査及び審議させるため、必要に応じ部会を設置することができる。

(庶務)

第 6 条 推進会議の庶務は、健康増進担当課において処理する。

(委任)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

2 委員名簿

①宜野湾市食育推進会議委員名簿

	氏名	所属機関
1	森山 克子 (会長)	琉球大学教育学部
2	大城 洋子 (副会長)	沖縄県食生活改善推進員連絡協議会
3	天願 勇	中部地区医師会 宜野湾班
4	仲村 将満	中部地区歯科医師会 宜野湾班
5	古堅 宗篤	宜野湾市小中学校校務研究会
6	下地 智子	宜野湾市PTA連合会
7	新垣 則子	宜野湾市認可保育園 園長会
8	仲村 健一	宜野湾市私立保育園連絡協議会
9	大城 ちえ子	宜野湾市自治会長会
10	平良 エミ子	宜野湾市婦人連合会
11	米須 享平	宜野湾市青年連合会
12	西銘 史則	宜野湾市商工会
13	松川 勉	沖縄県農協 宜野湾支店
14	宮園 峰子	宜野湾市食生活改善推進協議会
15	知名 リエ子	公募委員
16	小宮 礼子	公募委員
17	砂邊 里佐	中部福祉保健所 健康推進班
18	玉那覇 豊子	宜野湾市 健康推進部
19	宮城 豊信	宜野湾市 市民経済部
20	石川 正信	宜野湾市 教育委員会指導部

②宜野湾市食育推進計画策定検討委員会委員名簿

	氏名	所属機関
1	喜舎場 宏 (委員長)	健康推進部 次長兼介護長寿課長
2	仲里 美智子 (副委員長)	健康推進部 健康増進課長
3	桃原 忍子	福祉推進部 次長兼福祉総務課長
4	武元 英樹	教育委員会 指導部 指導課長
5	宮良 弘美	健康推進部 健康支援課長
6	宮城 正弘	健康推進部 福寿園長
7	嘉手納 貴子	福祉推進部 保育課長
8	国吉 孝博	市民経済部 商工農水課長
9	花城 清人	教育委員会 指導部 学校給食センター所長

③宜野湾市食育推進計画策定作業部会委員名簿

	氏名	所属機関
1	池原 史真子	健康推進部 健康支援課 係長
2	長嶺 恵子	健康推進部 健康支援課 管理栄養士
3	安里 伊代	健康推進部 介護長寿課 管理栄養士
4	長濱 直樹	健康推進部 介護長寿課 係長
5	志良堂 孝	健康推進部 健康増進課 係長
6	新垣 京子	健康推進部 健康増進課 栄養士
7	脇崎 奈穂	健康推進部 福寿園 管理栄養士
8	玉那覇 邦子	福祉推進部 保育課 栄養士
9	仲松 剛	市民経済部 商工農水課 係長
10	山城 亨	教育委員会指導部 指導課 指導主査
11	上江洲 健一	教育委員会指導部 学校給食センター 調理員
12	平良 智子	教育委員会指導部 学校栄養職員

④ぎのわん食育ワークショップメンバー

○「子ども」を中心としたテーマのAグループのメンバー

	氏 名	所 属 機 関
1	仲里 慶子	食生活改善推進員（園芸部）
2	新城 清子	自治会長
3	知名 リエ子	市民公募
4	新垣 則子	認可保育園園長
5	宮城 明子	健康増進課
6	新垣 京子	健康増進課
7	上江洲 健一	学校給食センター
8	平良 智子	学校給食センター
9	山城 亨	指導課

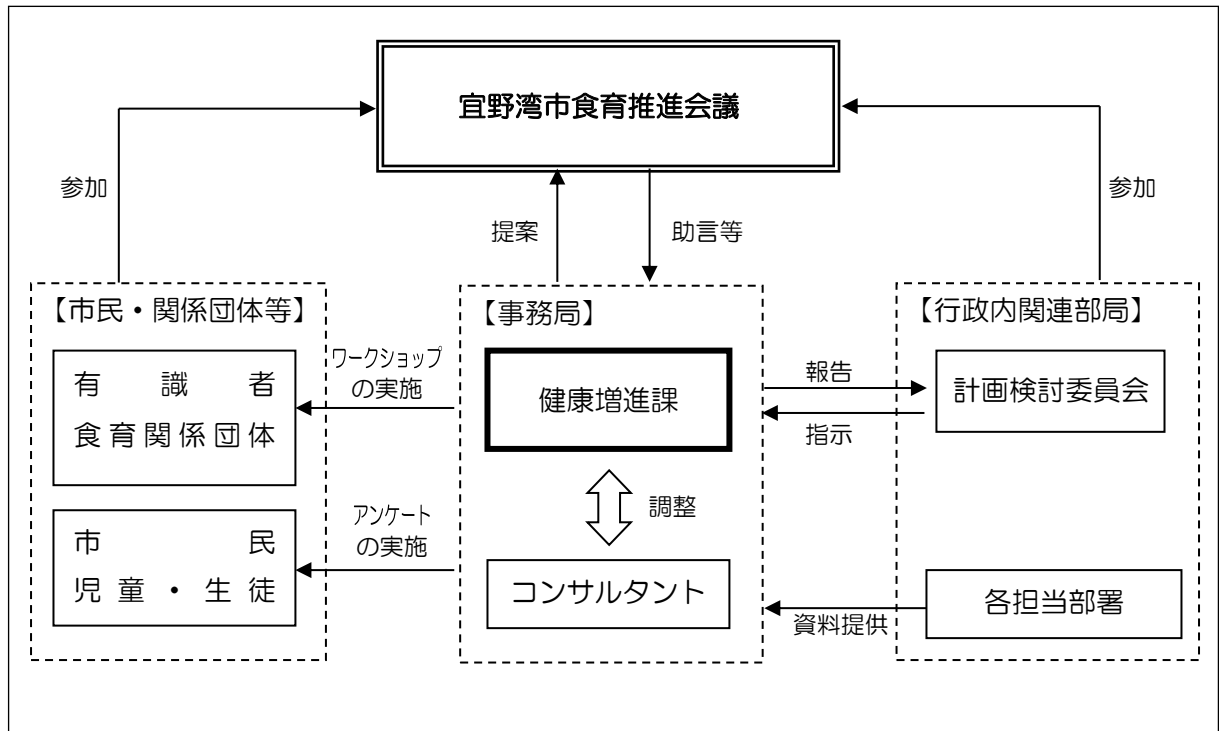
○「大人」を中心としたテーマのBグループのメンバー

	氏 名	所 属 機 関
1	岸本 恒子	食生活改善推進員（運動部）
2	狩俣 米子	健康づくり推進員
3	米須 亨平	青年連合会
4	波平 道子	市婦人連合会
5	板倉 好	中部福祉保健所
6	志良堂 孝	健康増進課
7	池原 史真子	健康支援課
8	長嶺 恵子	健康支援課
9	長濱 直樹	介護長寿課
10	安里 伊代	介護長寿課
11	脇崎 奈穂	福寿園
12	玉那覇 邦子	保育課
13	仲松 剛	商工農水課

3 計画策定の体制

計画策定は、行政内関連部局で構成される計画検討委員会及び作業部会で、計画案等に関する検討を行うとともに、平成24年度3月に制定した宜野湾市食育推進会議条例に基づき組織された『宜野湾市食育推進会議』において、計画案等に対し助言等を頂きながら計画書の取りまとめを行います。

また、計画案等については各担当部署へのヒアリング、市民及び児童生徒への意向調査、食育関係団体等からなるワークショップを実施しながら、本計画の策定を行います。



4 宜野湾市食育推進 計画策定の経緯

	①食育推進会議	庁内会議		④ぎのわん食育 ワークショップ (関係課・関係団体等)	市民など
		②検討委員会	③作業部会		
平成 25 年 6 月			第 1 回 (6/24) 作業部会		
7 月					就学前児童及 び児童・生徒、 市民アンケート 調査の実施
8 月			関係課ヒアリ ングの実施		
9 月					
10 月		第 1 回 (10/25) 策定検討委員会	第 2 回 (10/15) 作業部会	第 1 回 (10/24) ワークショップ	
11 月	第 1 回 (11/21) 食育推進会議			第 2 回 (11/6) ワークショップ 第 3 回 (11/26) ワークショップ	
12 月		第 2 回 (12/26) 策定検討委員会	第 3 回 (12/20) 作業部会		
平成 26 年 1 月	第 2 回 (1/14) 食育推進会議 第 3 回 (1/30) 食育推進会議	第 3 回 (1/21) 策定検討委員会			
2 月	市長へ報告 (2/18) 庁議 (2/20)				パブリックコ メントの実施
3 月					

5 ぎのわん食育ワークショップの結果

(1) ぎのわん食育ワークショップの目的

宜野湾市では、平成 17 年 7 月に施行された食育基本法に基づき、食育を総合的かつ計画的に推進するための「(仮称) 宜野湾市食育推進計画」策定を進めています。

その計画策定にあたり、宜野湾市の食育に関わる関係団体及び関係課の専門的な経験・蓄積等を活かし、より実践的な視点から議論を行うことが必要と考えており、食育関係団体及び市職員参加で構成する「ぎのわん食育ワークショップ」を設けました。

「ぎのわん食育ワークショップ」では、市民が抱える課題や所属団体の取組・活動を進める上での課題等をグループで話し合いを行い、将来のめざす姿とその実現にむけた具体的な取り組み（アイデア）を出し合うなど、宜野湾市の食育推進に関して考える場とし、グループ別ワークショップを通して取りまとめることが目的です。

(2) ワークショップの実施概要

食育は各ライフステージに係わることから、主に「子ども」を中心としたAグループ、「大人」を中心としたBグループの2つのグループに分けて、ワークショップを10月下旬から11月にかけて3回開催しました。

第1回のワークショップでは、データ等からみる市民の食生活と健康問題や宜野湾市における食育の取り組み、市民及び児童生徒等のアンケート調査結果概要を報告するとともに、前川准教授（名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科）による「なぜ、今、「食育」が必要なのか？」をテーマに食育講話を開催しました。また、ワークショップの進め方やグループ分けを行い、各グループで参加者による自己紹介等を行いました。

第2回のワークショップでは、2グループに分かれて、第1回ワークショップの内容や日頃感じている宜野湾市食育に係わる「課題や問題点」、その課題や問題点を解決するための「取組アイデア」等について、ポストイット（トランプKJ法）を用いたグループワークショップを行い、最後に各グループから発表しました。

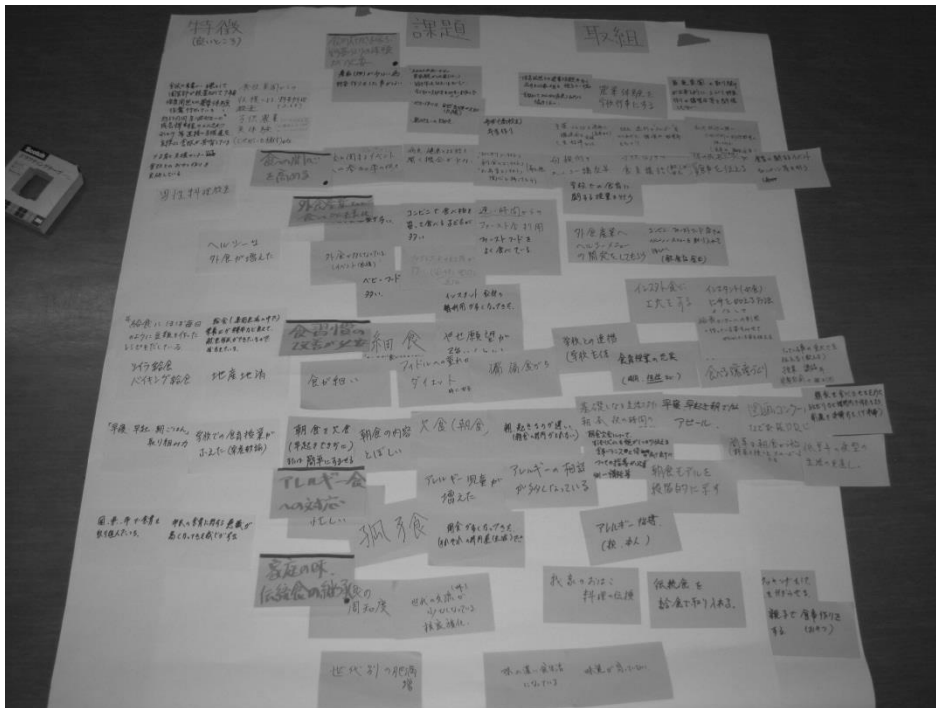
第3回のワークショップも第2回と同様に2グループに分かれて、前回の補完作業「取組アイデア」の抽出や「将来のめざす姿」の抽出を各グループで行い、各グループから発表しました。

■ぎのわん食育ワークショップの概要

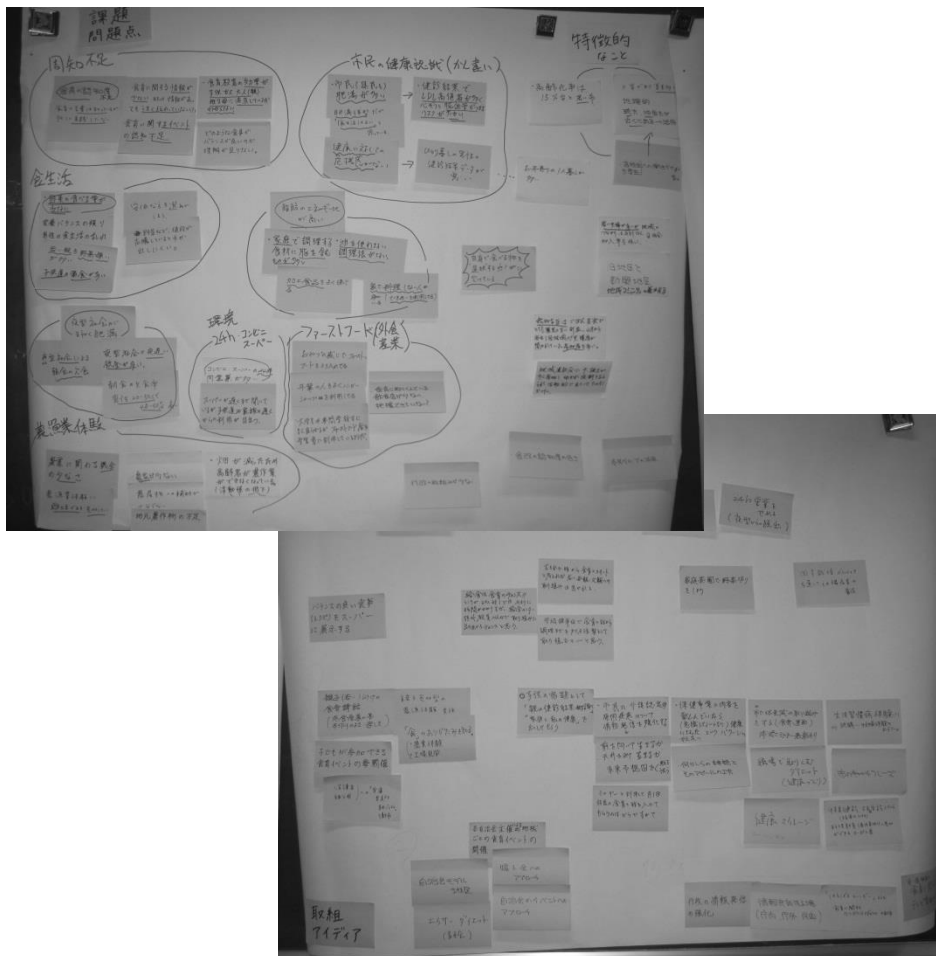
日時・場所	テーマ等	開催の様子
<p>第1回</p> <p>平成25年 10月24日(木) 15:30~17:30 保健センター2階</p>	<p>テーマ：『なぜ、今、「食育」が必要なのか？ ～「食育」について学ぼう！～』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主催者あいさつ 2. 市民の健康課題と「食育」の必要性について <ul style="list-style-type: none"> ・データ等からみる市民の食生活と健康問題 ・宜野湾市における食育の取り組み ・市民及び児童生徒等のアンケート調査結果概要 4. 食育講話 テーマ「なぜ、今、「食育」が必要なのか？」 ・講師 前川 美紀子 名桜大学(名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科) 5. 全体ワークショップ ～意見交換会～ ・ワークショップの進め方について ～グループに分かれて自己紹介(1人5分程)～ 6. 連絡事項 	
<p>第2回</p> <p>平成25年 11月6日(水) 15:30~17:30 保健センター2階</p>	<p>テーマ：『食育に係わる現状と課題を把握しよう!』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ワークショップの進め方 2. グループ別ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・「現状と課題」の抽出 ・「実現のための取組アイデア」の抽出 ・グループ別発表 3. 連絡事項(次回にむけて) 	
<p>第3回</p> <p>平成25年 11月26日(火) 15:30~17:30 保健センター2階</p>	<p>テーマ：『将来の目指す姿や具体的な取り組みを考えよう!』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ワークショップの進め方 2. グループ別ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・「実現のための取組アイデア」の抽出 ・「将来のめざす姿」の抽出の抽出 ・グループ別発表 3. 閉会のあいさつ 	

第2回ぎのわん食育ワークショップ

□Aグループ



□Bグループ

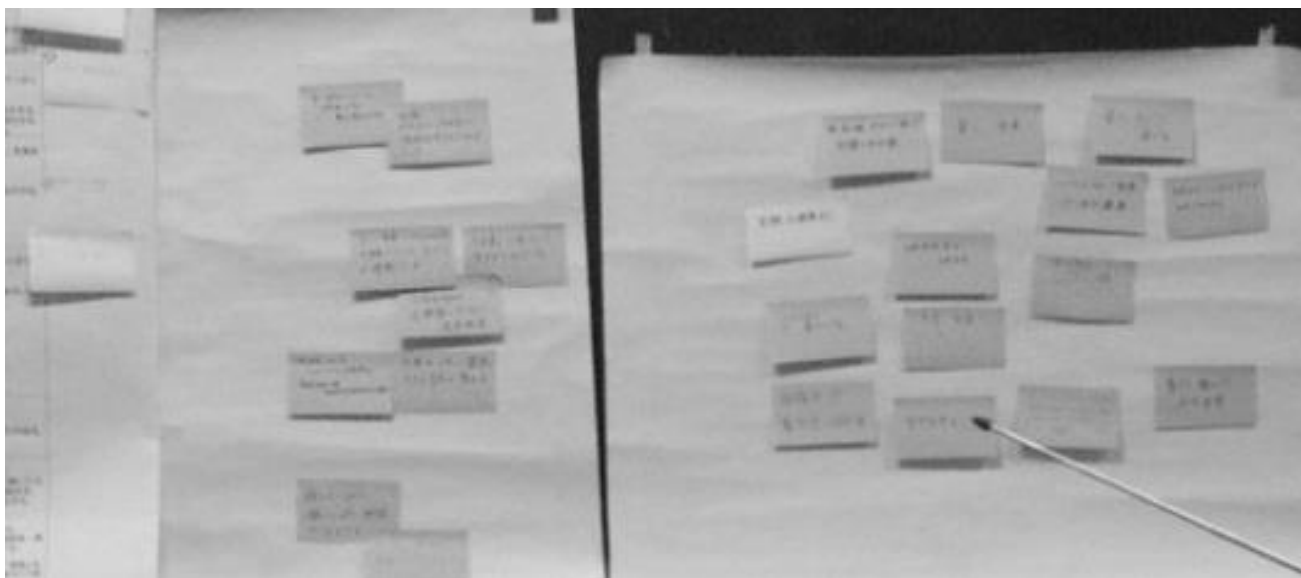


第3回ぎのわん食育ワークショップ

□Aグループ



□Bグループ



(3) グループワークショップの結果

第2～3回に行った各グループワークショップの結果（特性と課題、取組みアイデアや将来のめざす姿）を以下に示します。

◆ぎのわん食育ワークショップ

「子ども」を中心とした「Aグループ」(第2～3回)

■「将来像」のキャッチフレーズ

おいしく・楽しい家庭の味からはじまり、地域に広がる食育の輪
早寝・早起きで健康な「じのーんちゅ」を育む食育のまち

「将来像」のキーワード

- ・安心・安全 ・地域をつなぐ食育の輪 ・早寝・早起きでおいしい朝ごはんを食べよう
- ・早寝・早起き・朝ごはん・楽しい食事作り（料理）・「弁当の日」で取組「食育のまち」ぎのわん市
- ・1日3食ママの手料理 ・親子でつくる楽しいお弁当 ・家庭の味はおふくろからー
- ・おいしく、楽しく料理して健康な宜野湾市民で（じのーんちゅ）
- ・“楽しい食生活宜野湾市” ・育ててみよう野菜づくり ・選んで食べよう！！外食は

■「将来のめざす姿」の抽出

- ・食育に関するキーワードで地域住民が一つになり意見交換しながら対策を解決する。
- ・コンテスト等に参加することで食への関心が高まる。
- ・各セクションとの連携がとれてあらゆる面からのアプローチができる。
- ・各学校で食育授業が増えている（栄養士も）。
- ・みんながバランスのよい朝食を作って食べている。
- ・共に食する宜野湾市民（孤食のない）
- ・各地区の子供会が年2回の手作り弁当を持参し近くの公園に遠足に行く。
- ・ムダなアレルギー除去がなくなる。
- ・家庭の味がわかるようになる。

■取組みアイデア

※★は重点的に取り組むべき項目

食育の
関心や
知識

<食育イベント等の開催>

- ★「おにぎりコンテスト」「朝食のコンテスト」「お弁当コンテスト」等を開催し、子どもやその親に関心を持ってもらう。→クラス対抗等
- ・食育に関するイベント（キャンペーン等）を行う。・産業まつり等での料理コンテストの充実を図る。
- ★<各種講座の開催等>
- ★子供向け食育講話（紙芝居を含む）を開催する。 ・母親向け、ヘルシー講座等を開催する。
- ・野菜ソムリエを講師に講演会を開催（高校にて）。大変好評だった。・体の成長に必要なバランス食事を伝える。

食生活・
生活習慣の
改善

<学校給食での意識啓発>

- ★学校との連携（学校主体で食育の推進を!!）
- ・学校と他のセクション（センター）との連携 ・食育授業の充実（時間、担任など）
- ・給食センターの利用を（作っている姿をみせて、頑張っている姿を伝える）
- ・完食運動等、食べる環境づくりを（残食が多い現状等）
- ・学校と給食センターとの連携による食育授業等の推進 ・農水・JAとの連携（地産地消）
- ★<食生活や生活習慣の改善等>
- ★今やっていることの重大さを伝える（教える）。授業、食育講話等、栄養教諭の利用を図る。
- ・基礎となる生活スタイル 朝・昼・夜の時間の確立
- ★朝食欠食について、生活リズムを親がしっかり伝える。食事バランスと体の成り立ちについての指導（例えば講話等）が必要である。
- ★朝食モデルを個人にあわせて段階的に示す。
- ・簡単な朝食から始めよう（野菜を使ったスムージー等でも）
- ・朝食を食べさせるために、おにぎりなど短時間で作れるよう、前夜で準備する（下準備）
- ★<早寝・早起き・朝ごはん>
- ・早寝・早起き・朝ごはんのアピールが大事である。
- ・（早寝・早起き・朝ごはんの）図画コンクール、標語コンクールなどでPRを。
- ・朝食メニューの（栄養面も含む）紹介・提示
- ★朝食欠食について生活リズムを親がしっかり伝える。食事バランスと体の成り立ちについての指導

■取り組みアイデア

※★は重点的に取り組むべき項目

<p>食の大切さを学ぶ栽培・収穫体験</p>	<p>＜栽培・収穫体験＞ ★保育園児との農業体験を多く広める必要がある（親子一緒に） ・食改として、みんなの（市民）ために協力したい ・農業体験を学校行事にする ・家庭菜園の取組みができるように、土作り、野菜作りの講習会等を開催してほしい ＜調理体験等＞ ★弁当作り ・年1回の弁当の日の設定（親子で作る弁当等） ・現在、流行の“スムージー”等取り上げた講演や、教室等を持つ!! ・乳児健診の際に、父母同伴の料理教室を持ってみる（大人向けに栄養や離乳食等）</p>
<p>アレルギー等</p>	<p>＜アレルギー指導の充実＞ ・正しいアレルギー指導（本人（子ども）とその親）（孤食と偏食につながる）→市民全体で取り組む</p>
<p>外食産業など食の多様化</p>	<p>＜ヘルシーメニューの開発＞ ・外食産業にヘルシーメニューの開発をしてもらう。 ・コンビニ、ファーストフード店でのヘルシーメニューを取り入れてほしい。（飲食店含む）→市がカロリー表示 ・外食産業に対してカロリー表示を依頼する ＜インスタント食への工夫＞ ・インスタント食に工夫をする。 ・インスタント（中食）に手を加える方法を伝える。 ・レシピ集（ブログ掲載等）、カロリー表示・アレンジ等</p>
<p>家庭の味、伝統食の継承</p>	<p>★＜家庭の味の継承＞ ★我家のおはこ 料理の伝授を。 ・一緒にクッキングをして作る楽しさをわからせる。 ・親子で食事（おやつ）作りをする。 ＜伝統食の周知＞ ・伝統食を学校給食で取り入れる。</p>

	特徴	課題
<p>食育の関心や知識</p>	<p>＜食改と協力した料理教室の開催＞ ・子育て支援センターにて食改とおやつ作りを実施している。 ・男性料理教室を実施している。 ・小学生、中学生、高校生へのスポーツ系に食べ物大切を講話しながら料理のデモンストレーションの説明等実施している。 ＜市のイベントで料理コンテストの開催＞ ・市の産業まつりで料理コンテストを実施</p>	<p>＜食育の関心が低い、そのような機会が少ない＞ ・食に関するイベントへの参加率が低い。 （6月、9月コンベンションにて開催しているが・・・） ・病予予防や健康に関する話を聞く機会が少ない。 ・楽しく作る楽しく食べることを進めていくことが大事</p>
<p>食生活・生活習慣の改善</p>	<p>＜学校（給食）を通じた食育の推進＞ ・給食にほぼ毎日のように豆類を使ったレシピを出している ・給食（集団生活の中で）栄養士が栄養面など考えて、献立作成ができていますので、補えています。 ・シイラ給食 ハイキング給食 ・地産地消 ・学校での食育事業が増えた ＜早寝・早起き・朝ごはんの推進＞ ・「早寝・早起き・朝ごはん」の取組み力 ＜食育の意識啓発、意識向上を＞ ・国・県・市で食育に取り組んでいる ・市民の食育に対する意識が高くなってきた感じがする</p>	<p>＜朝食の欠食が課題である＞ ・朝食の内容が乏しい ・欠食（朝食）が多い ・早起きできずに、朝食を欠食する。または、簡単に済ませる。 ・朝、起きるのが遅い（朝食のお時間がとれない） ＜食が細い・偏食等の問題＞ ・細食“自らあまり食べようとしな” ・食が細い ・アイドルへの憧れ化、ダイエット。特に女子。 ・やせ願望が強い（中学生女子） ・偏食しがちである。 ＜個食・孤食の問題＞ ・個食が多くなってきた（それぞれの時間差（生活）で!!家族と一緒に食べるように!） ・孤食（食事メニューが別々。栄養面での偏り等が課題になる） ・親も子ども忙しい（共食を!） ＜その他（味の濃い食生活、世代別肥満の増加）＞ ・味の濃い食生活になっている →味覚が育っていない・世代別の肥満増が問題である ＜塾通いの子どもたちの夕食が問題＞ ・塾通いの子供達の食事の取り方に問題がある。（夕食が遅い等） ＜小中学生の登下校のコンビニ利用＞ ・小中高生の登下校の際のコンビニ利用が問題。（自宅で食事を摂らない） ＜高校生の保護者向けに弁当作り指導が必要＞ ・高校保護者向けに弁当作り指導が必要</p>
<p>食の大切さを学ぶ栽培・収穫体験</p>	<p>＜栽培・収穫体験＞ ・食改の事業の一環として、園芸部が設置されて7年目である。保育園児との農業体験作業を行っている。 ・約5ヶ月間、月1回野菜の成長過程を観察、水やり等、直接子どもたちが主役となって、食改が協力している。 ・食改菜園からの収穫による、野菜料理をふるまう。 ・子ども農業実体験（じゃがいも植付）がある。 ・太陽の力、土の力を伝えることで子供達が野菜を食べるようになってきている。</p>	<p>＜栽培・収穫体験が必要＞ ・農家（畑）が少ないため、料理作りをしたことがない。 ・土との触れ合いが少ない。（実体験が必要である） ・自分で作った野菜はおいしい。 ・食べ物の大切さを野菜作りで学ぶべき。 ・野菜作りは、自然気候（太陽）が大切。 ・島野菜の大切さ。</p>
<p>外食産業など食の多様化</p>	<p>＜外食産業においてヘルシーメニューが出てきた＞ ・ヘルシーな外食が増えてきた。</p>	<p>＜アレルギーの子どもが増えた＞ ・アレルギー児童が増えた（思い込んでいる人もいる）・アレルギーの相談が多くなっている ＜ファーストフードやインスタント等による食の多様化＞ ・飲食（外食）産業が多い。・外食が多くなっている。（イベント（家族）） ・コンビニで食べ物を買って食べる子どもが多い。・遅い時間からのファーストフード店利用が多い。 ・ファーストフードをよく食べている。・ベビーフードの利用が多い。 ・ファーストフードの利用が多い。（週1回以上の利用が小学生4割、中学生5割） ・インスタント食材の利用が多くなってきた。</p>
<p>家庭の味、伝統食の継承</p>	<p>＜家庭の味の継承が必要＞ ・世代の交流（味）が少なくなっている。（その背景の1つとして核家族化の進展） ＜伝統食の周知＞ ・伝統食の周知が課題である。</p>	<p>＜家庭の味の継承が必要＞ ・世代の交流（味）が少なくなっている。（その背景の1つとして核家族化の進展） ＜伝統食の周知＞ ・伝統食の周知が課題である。</p>

■「将来像」のキャッチフレーズ

おいしさあーバランスよく食事食べて 楽しさあーみんなそろって食事で
うれしさあー健康的で(長生き)生き生き 健康都市

「将来像」のキーワード

- ・朝・昼・晩きちんと食べて笑顔のわが家
- ・笑顔は健康から
- ・0才から100才までのねたてのまち
- ・将来・未来
- ・育てて、食べてみな元気
- ・おいしさあー
- ・うれしさあー
- ・健康的で(長生き)生き生き
- ・健康都市
- ・楽しい食事
- ・楽しくかしく食べる
- ・バランスのよい食事でも健康
- ・心も体も若々しく
- ・目指せ!! 食べて100才
- ・生き生きと
- ・楽しさあー
- ・みんなそろって食事で

■「将来のめざす姿」の抽出

- ・食に関するイベントの開催が多く楽しく参加できる
- ・正しい食事(バランスのとれた食事)について多くの人理解している
- ・子供達が3食食べているようになっている
- ・外食産業においてもヘルシーメニューの展開を。食育活動に協力的な飲食店の増加
- ・外食を上手に選択できる市民が増える
- ・プランター、あたいがわー菜園
- ・行われている食育の情報が共有されている
- ・医療費の少ない健康都市
- ・庭のどこかに緑いっぱい野菜が生えている

■取り組みアイデア

※★は重点的に取り組むべき項目

食育の関心や知識	<p><食育イベント等の開催></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食」のありがたみを知るための農業体験や工場見学を実施する。・子どもが参加できる食育イベントを開催する。 <p>★<各種講座の開催></p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子(若い)向けの食育講話(外食産業の害、手作りの良さ・楽しさ)を開催する。 ・ミニデイを利用して、食改や行政による月1回程度の食育の話(講話)を入れてもらう。 <p>★<さまざまな媒体を活用した食育の周知></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はえばるカレンダー」のような食育に関するワンポイントアドバイスの配布をする。 ・市のキャッチフレーズを作る。 ・市・県独自の食育に関するテレビ番組またはCMで周知する。 ・情報共有する場(市内、町外、民間)を設ける。 <p><子どもを通じた意識啓発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供を通して「大人」を動かす。 ・高学年の夏休みの宿題で親の健康チェック。 <p><学校との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ★食育講話を実施する。(学年行事、教育委員会と連携して)
食生活・生活習慣の改善	<p><早寝・早起き・朝ごはんの周知徹底を></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、祖父母への「早寝・早起き・朝ごはん」を徹底する。 <p><減脂運動の普及></p> <ul style="list-style-type: none"> ★減塩運動に対して、減脂運動を普及させる。・油を使わない、脂を落とす調理法(レシピ)を普及させる。 <p>★<市のHPの活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市のHPなどネットで募集して365日夕飯のヘルシーレシピを作り、表彰する。 <p><市職員から弁当づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市職員の弁当甲子園をする。(部長表彰)→職場に波及
夜型社会や外食産業	<p>★<ヘルシー協力店を市が認定する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の外食産業に対して、ヘルシー協力店として市が認定する。(その仕組みづくりから) <p><24H営業のコンビニ・スーパーの工夫を></p> <ul style="list-style-type: none"> ・難しいかもしれないが、24H営業をやめる。あるいは、商品を限定する等工夫をする。

■取り組みアイデア

※★は重点的に取り組むべき項目

<p>栽培・農 漁業 体験</p>	<p>★<栽培・農漁業体験の実施> ・親子参加型の農漁業体験を実施する。 ・家庭菜園で野菜作りを行う（奨励する）。 ・田芋栽培ボランティアを通して地場産業の普及を図る。</p>
<p>市民の健康課題・健康つ くり等</p>	<p><職場等での健康づくり> ・職場でダイエット（健康づくり）を取り組む。・無意識で健康づくりができる保健事業の取り組みを。 ・市で体重減の取組みを試みる。（浦添市では3kg減少した方に表彰している） ・市民の介護認定の原因疾患について情報発信を強化する。 ・生活習慣病体験ができないか <健康マイレージサービス> ・胃カメラ等のオプションが無料等の健康マイレージサービスを実施する。 ・特定健診（指導も）を5年間受診したら料理教室（県内著名人）へ参加できる等クーポン券を発行する。 <学校と連携した取り組みを> ・子どもたちへの宿題として、「親の健診結果調べ」「家族と私の健康」を実施したり、また、家族の未来予想図を 考えたり歌ったり等の取り組みを教育委員会と連携する。</p>
<p>地域コミュニティ の交流</p>	<p>★<地域・学校・各団体と連携した取り組みを> ・婦人会へのアプローチを積極的に行う。 ★大学生、大学との協働で食育を取り組む。 ・学級単位で、食育の話から調理までをPTA活動として取り組む。 ・各自治会主催による地域ごとの食育イベントを開催する。 ・自治会のイベントへのアプローチ（タイアップ）した取り組みを。 ・青年会によるエイサーダイエットを行う。</p>

	特 徴	課 題
<p>食育の関心や知識</p>		<p><食育の認知度が低い> ・食育の認知度が低い。 ・食育の言葉は知っているが、忙しくて実践していない。 ・周知が弱い ・食育に関する情報が少ない。または、情報があってもうまく伝わっていない。 ・食育に関するイベントの周知不足。 ・どのような食事がバランスがとれているかの理解が足りない。 <食育の意識啓発が必要> ・食改の認知度が低い。 ・行政の取組みが少ない。 ・行政の情報発信が弱い。 ・食育教育の効果が子どもから大人（親）、祖父母に波及しているかわからない。 ・生まれた時から食育のスタートと考えれば、若い母親・父親への取組みは急がれる。</p>
<p>食生活・生活習慣の 改善</p>		<p><20～50代で朝食の欠食が多い> ・朝食の欠食が、男性20～50代で40～50%と高い。 ・安価で簡単な食事を選んでしまう。 <野菜を食べる量が少ない> ・野菜の食べる量が少ない。 ・若い親も野菜きらいが多い。 ・栄養バランスが偏っている。 ・食生活の乱れが問題である。 ・野菜など、値段が高騰していると手が出しにくい。 <食の選択力不足> ・自身で食べるものを“選択する”力に欠けている。</p>
<p>夜型社会や外食産業</p>		<p><24H営業が多い> ・コンビニ・スーパーの24時間営業が多い。 ・スーパーが遅くまで開いているため、子どもたちや家族の遅くからの利用が目立つ。 <夜型社会> ・夜型社会が招く肥満者が増加している。 ・夜型社会による朝食の欠食が増えている。 ・夜型社会で夜遅い飲食が多い。 <ファーストフード> ・大学生や専門学校生によくみられるが、ファーストフード店を学習室に利用している。 ・年配の人もよくファーストフード店を利用している。 ・おやつ感覚でファーストフードを取り入れている。 <外食産業の把握> ・食育に取り組んでいる飲食店が少なく、行政が把握できていない。</p>
<p>栽培・農漁業 体験</p>	<p><農漁業体験の参加意欲が高い> ・農漁業体験に興味があり、参加したいと思っている。</p>	<p><農業の機会が少ない> ・農家が少ない。 ・農業に関わる機会が少ない。 ・地元農作物が不足している。 ・畑が減ったため、高齢者が農作業をできなくなっている。 <行政の補助が十分でない> ・農作物への補助が十分でない。</p>
<p>市民の健康課 題・健康つ くり等</p>	<p>・宜野湾市の高齢化率は15%台で若いまちである。 ・市民に（県民も）肥満が多い。 ・健診結果でLDL高値者が多く、心臓や脳血管が詰まるリスクが県内の中でも女性は一番高く、男性は二番目に高い。（ドロドロ血が多い） ・ひとり暮らしの男性の健診結果が悪い。</p>	<p><健康に対して危機感がない> ・肥満体型だが「食生活は良い」と思っている。（勘違いしている方が多い） ・健康に対する危機感がない。 ・健診受診率が低い。</p>
<p>地域コミュニ ティの交 流</p>	<p>・我如古区は、地域の歴史講座が開かれており、参加者も多い。 ・地域の運動会に、中・高校生が多く参加し、それぞれ与えられた役割をこなし、見ていて頼もしかった。 ・旧地区と新地区で地域コミュニティの差がある。 ・琉大、冲国大が近くにあり学生が多い。</p>	<p><地域コミュニティの交流が少ない> ・若い夫婦が多いが、地域の繋がりはあまりなく、自治会加入率も低い。 ・市民グループを活用した取り組みが少ない ・自治会や地域コミュニティの交流が少ない ・食育について、高校生、大学生への働きかけがない。</p>